

10月
ロジスティクス強調月間 2018

これからのロジスティクスのあるべき姿
～危機を乗り越え、第4次産業革命で未来を創る～

ロジティクス全国大会 2018

会期:10月18日(木)・19日(金)

会場:ベルサール神田

主催:公益社団法人 日本ロジスティクスシステム協会

基調講演 10月18日(木)

ロジスティクスの見える化

サプライチェーン4.0に向けた取り組みの方向性

株式会社ローランド・ベルガー プリンシパル

小野塚 征志 氏



特別講演 10月19日(金)

イノベーションを引き起すアマゾンの 企業文化とAWSクラウド活用 先進事例のご紹介

ークラウドで加速するIoT、ビッグデータ、AI事例ー

アマゾン ウェブ サービス ジャパン株式会社

事業開発本部 本部長

安田 俊彦 氏



ロジスティクス全国大会 2018 開催にあたって



ロジスティクス強調月間2018 推進委員会

委員長 **吉本 一穂**

早稲田大学 理工学術院 創造理工学部
経営システム工学科 教授

今日の世界経済は緩やかな回復傾向にあると言われております。しかし、米国による関税の引き上げやその貿易相手国の報復措置にとまなう貿易摩擦の激化、地政学的なリスクや各国の政策に関する不確実性など、グローバルなサプライチェーンに与える影響により、見通しが不透明な状況にあります。

一方で我が国の経済に目を転じると、雇用環境や所得環境の改善が続くなか、消費や投資は堅調に推移し、企業の努力は成果をあげ、現在の回復基調は継続していくと見込まれております。

各企業においては、国際競争がますます激化する中で、グローバル規模でのサプライチェーンにおける、リアルタイムでシームレスな情報連携や迅速な意思決定が求められております。また、ECの急速な拡大に伴う流通形態や社会構造の変化への対応、大規模な災害発生時の支援や事業継続等、様々な課題が山積しております。

また、ロジスティクス・物流における労働力不足は深刻さを増しており、産業活動全体に大きな影響を及ぼしております。「物流クライシス」とも呼ばれるこの事態を乗り越えるには、全体最適を志向したサプライチェーンの連携強化を図っていくことが重要です。

このような状況の下、公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会では、毎年10月を「ロジスティクス強調月間」と位置付け、産業界をはじめ社会全体へロジスティクスの普及活動を展開しております。本年は、「これからのロジスティクスのあるべき姿 ～危機を乗り越え、第4次産業革命で未来を創る～」を統一テーマとして、産官学の関係者および38社のサポーターのご協力のもと、全国的な規模で普及促進活動を実施いたします。

その一環として、東京ではロジスティクスの意義と重要性を産業界へ提唱するため、「ロジスティクス全国大会2018」を10月18日(木)、19日(金)の両日、東京・千代田区のベルサール神田にて開催いたします。

深刻な労働力不足に加え、流通構造が複雑化し、物流コストも増加傾向にあるなか、各企業は調達、生産、販売などの社内連携、取引先との企業間連携によるロジスティクス改革を経営戦略として位置付け、生産性、企業価値の向上に取り組むことが求められます。ロジスティクスの観点から企業価値を向上させるためには、部分最適に陥ることなく各機能を横断的にマネジメントすることが重要であり、社内や企業間連携を推進するうえでの共通言語として「ロジスティクスKPI」の活用が注目されています。

今年度の大会では、「ロジスティクスKPI」の活用をテーマとしたパネルセッションを実施いたします。企業経営においてロジスティクス改革を推進するためのKPI導入のポイントや、課題解決と生産性向上に向けたKPI活用方法、各企業が取り組むべき内容等についてご議論をいただき、今後の方向性を探ってまいります。

また、「2018年度 ロジスティクス大賞」受賞企業による、ロジスティクス高度化への革新的な取り組み事例の発表が行われます。

ロジスティクス全国大会2018が、全国のロジスティクス関係者による先進的な情報の共有や活発な交流を通じて、危機を乗り越え、ロジスティクスの未来を考える良い機会となることと確信いたしております。皆様の積極的なご参加を心からお待ち申し上げております。

会場案内

ベルサール神田

東京都千代田区神田美土代町7 住友不動産神田ビル



交通のご案内

「小川町駅」B6出口徒歩2分(新宿線)／「新御茶ノ水駅」B6出口徒歩2分(千代田線)
「淡路町駅」A6出口徒歩3分(丸の内線)／「神田駅」北口徒歩7分(JR線)
「神田駅」4番出口徒歩7分(銀座線)
「大手町駅」C1出口徒歩8分(半蔵門線、丸の内線、東西線、三田線、千代田線)

ロジスティクス強調月間2018 推進委員会 委員名簿

(2018年8月1日現在・順不同・敬称略)

委員長

吉本 一穂 早稲田大学 理工学術院 創造理工学部 経営システム工学科 教授

副委員長

藤田 正美 キューピー(株) 執行役員 ロジスティクス本部 本部長

永田 孝司 (株)シジシージャパン 執行役員 物流事業部 事業部長

三苫 和彦 日本通運(株) 業務部長

委員

鷹合 賢司 (株)IHI 産業システム・汎用機械事業領域 事業開発部 次長
事業領域営業担当部長

安田 俊彦 アマゾンウェブサービスジャパン(株) 事業開発本部 本部長

横山真由子 (株)NTTデータ 製造ITイノベーション事業本部
コンサルティング&マーケティング事業部
デジタルコンサルティング統括部 課長

寺田 猛史 鴻池運輸(株) 経営企画本部 経営改革推進部 部長

櫻井 俊 東芝ロジスティクス(株) 常務取締役 経営企画部長


石橋 守 日本郵便(株) 本社 郵便・物流営業部 部長

弓野 理恵 (株)バンダイロジバル 取締役

内山 明 丸紅(株) 情報・物流・ヘルスケア本部 物流企画営業部 副部長

浜野 浩之 三井倉庫(株) 執行役員 営業部門 営業推進1部長

河野 淳 ライオン(株) SCM本部 SCM統括部長

10:00 ~ 10:05	推進委員長挨拶	ロジスティクス強調月間2018 推進委員会 委員長 早稲田大学 理工学術院 創造理工学部 経営システム工学科 教授	吉本 一穂
10:05 ~ 10:25	主催者挨拶	これからのロジスティクスのあるべき姿 公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会 常務理事 事務局長	寺田 大泉
		《コーディネータ》ロジスティクス強調月間2018 推進委員会 委員 日本郵便株式会社 本社 郵便・物流営業部 部長	石橋 守
10:25 ~ 11:35	基調講演	ロジスティクスの見える化 サプライチェーン4.0に向けた取り組みの方向性 株式会社ローランド・ベルガー プリンシパル	小野塚 征志 氏 
<p>AIやロボティクスといった先進技術の活用が広がる中で、ロジスティクスに見える化することの重要性は益々高まっている。オペレーションの効率性や物流品質を高めるだけでなく、企業経営の視点からPDCAサイクルを自律的に回すことのできる仕組みの構築が必要といえる。本講演では、ロジスティクスにおける見える化のあり方を解説するとともに、サプライチェーン全体の最適化に向けた取り組みの方向性を紹介する。</p> <p>・ロジスティクスにおける見える化の基本的な考え方 ・見える化による収益力強化の取り組み事例 ・サプライチェーン4.0の実現に向けた主要論点</p> <p>略歴 慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修了後、日系シンクタンク、システムインテグレーターを経て現職 ロジスティクス分野を中心に、成長戦略、新規事業戦略、企業再生、組織構造改革、業務再構築、M&A戦略、サプライチェーンマネジメント等を始めとする多様なコンサルティングサービスを展開 経済産業省Logitech分科会常任委員 経済同友会物流・生産分科会WG委員</p>			
休憩			
11:45 ~ 12:45	行政動向	「ロジスティクス効率化に向けた行政の取り組み(仮)」 国土交通省・経済産業省	
昼休み			
パネルセッション：企業価値向上に向けたロジスティクスKPIの活用			
13:45 ~ 14:10	イントロダクション	公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会 JILS総合研究所 ロジスティクス環境推進センター長	北條 英
14:10 ~ 14:35	キーノート スピーチ	流通経済大学 流通情報学部 教授 ・セッションの大枠説明 ・ロジスティクスKPI推進部会の活動概要の報告 ・パネルディスカッションへの問題提起	林 克彦 氏
14:35 ~ 15:35	ロジスティクスKPI 活用 先進企業の 事例紹介	花王株式会社 SCM部門 ロジスティクスセンター管理グループ 部長 キューピー株式会社 執行役員 ロジスティクス本部 本部長 サンスター株式会社 経営統括本部 理事 ロジスティクス担当 ・各企業のKPI活用の事例紹介や課題、今後の展望等	山口 裕人 氏 藤田 正美 氏 荒木 協和 氏
コーヒープレイク			
15:50 ~ 16:50	パネル ディスカッション	〈コーディネーター〉 流通経済大学 流通情報学部 教授 〈パネリスト〉 花王株式会社 SCM部門 ロジスティクスセンター管理グループ 部長 キューピー株式会社 執行役員 ロジスティクス本部 本部長 サンスター株式会社 経営統括本部 理事 ロジスティクス担当 ・ディスカッションテーマ1 「経営とロジスティクスKPI」 ・ディスカッションテーマ2 「連携とKPI」	林 克彦 氏 山口 裕人 氏 藤田 正美 氏 荒木 協和 氏
16:50 ~ 17:00	総括	企業価値向上に向けたロジスティクスKPIの活用 流通経済大学 流通情報学部 教授	林 克彦 氏

10:00 ~ 10:15	ロジスティクス大賞 表彰式	《主催者代表》公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会 副会長 日本通運株式会社 代表取締役会長 渡邊 健二
2018年度ロジスティクス大賞 受賞記念講演		
10:20 ~ 10:30	セッションの紹介	《コーディネータ》ロジスティクス大賞 ノミネート委員会 委員 株式会社野村総合研究所 コンサルティング事業本部 社会システムコンサルティング部 上級コンサルタント 森川 健
10:30 ~ 11:20	ロジスティクス大賞 選考委員会特別賞	知能ロボットコントローラによる物流現場での ピースピッキング自動化 ・物流業界を取り巻く環境とロボットの需要 ・MUJINの技術とピースピッキングソリューションの特徴説明 ・MUJINが手掛ける最新物流センター自動化事例 株式会社MUJIN CEO 兼 共同創業者 滝野 一征 氏 <small>市場規模が拡大を続けるeコマースでは、注文がピークとなる夜間以降の深夜から早朝にかけての出荷作業を担う労働力の確保が重要となっている。その一方で、人口減少社会に突入した我が国においては生産年齢人口が、2015年の7,592万人から2050年には5,001万人まで減少すると予測されており、労働集約型産業である物流業にとって死活問題となっている。既存の物流現場における業務改善ではなく、抜本的な変革が求められている。省人化及び無人化の有効な取り組みとしてロボットの活用があるが、取り扱ひ品目が日ごとに変わり、多品種かつ荷姿も千差万別であったために、ロボットによる自動化が不可能とされてきた。これを、独自のモーションプランニングAI技術や三次元認識技術等を活用した知能ロボットコントローラによって、物流現場でのピースピッキングの自動化を実現したのが本取り組みである。物流倉庫の完全自動化を可能とするこの技術は物流現場の変革をもたらす革新的な技術として高く評価された。</small>
休憩		
11:30 ~ 12:20	ロジスティクス大賞 経営革新賞	サプライチェーンで取り組む配送効率化「バラちらし」 ・値上げでは課題の解決にならない。全体最適は商物連携で一段と進化する。 ・物流現場を離れ、商流までを見渡せばムダ・ムリ・ムラの要因は何処にでもある。 ・商流にモノ申す「バラちらし」は何故まかり通ったのか 乾汽船株式会社 倉庫事業部 グループリーダー 八島 弘尚 氏 <small>電子化に伴って領収書や納品書などに使用される情報用紙の需要が減少する中、物流現場の改善によるコスト削減は限界にきていた。そこで、商流におけるムラを無くし、配送の効率化を図るべく、午前中に集中していた納品をバラにしたのが本取り組み「バラちらし」である。特筆すべきは、荷主(荷送人)の了解のもと、納品先(荷受人)一軒一軒を訪問し、「バラちらし」取り組みの承諾を全ての納品先から得た点である。これはドライバー一人一人が納品先における時間的、空間的な余裕の有無を丁寧に観察し、納品先の現場にとって「小さな影響」であることを示した結果の賜といえる。この取り組みにより、導入前後において、22.2%のトラック台数の削減、1.84回転から2.02回転へと、9.8%の回転率の向上を達成している。また、この取り組みを荷主企業が全国展開するほか、納品先企業からも水平展開したいという要望が届くなど、今後の広がりに期待できる取り組みとして評価された。</small>
12:20 ~ 13:10	ロジスティクス大賞 環境貢献賞	内陸コンテナデポ(ICD)を利用したコンテナラウンドユースとシャトル 輸送をあわせた安定的なCO₂削減と、輸送環境負荷軽減への挑戦 ・コンテナラウンドユースの意義と必要性 ・コンテナラウンドユース継続推進による環境負荷軽減 ・今後の展開と更なる新たな挑戦 ケービーエスクボタ株式会社 開発営業部 部長 武山 義知 氏 <small>空コンテナ輸送を減らすコンテナラウンドユースは、トラックの総走行距離を低減し、輸送コストを削減できるほか、CO₂排出量の削減、さらには慢性的な港湾エリアにおける渋滞緩和の方策にもなる取り組みである。しかし、輸出入で利用するコンテナのマッチングが大きな課題となっていた。この課題に対して、内陸コンテナデポを設置し、輸出入で使用するコンテナのサイズ及び使用船社を同一として、ほぼ全ての輸入コンテナを輸出で再利用している。そして、輸送の効率化及び労働環境の改善を図るために、輸送の定時制を向上する工夫を行っている。日中の渋滞が激しい港湾エリアは、夜間に港と内陸コンテナデポ間を往復するシャトル輸送、そして内陸コンテナデポに荷主間は、長時間拘束を解消するために日中にピストン輸送を行うオペレーションを確立している。これにより、2017年には約1500トンものCO₂排出量の削減を実現しており、このような環境負荷低減に貢献する取り組みが評価された。</small>
昼休み		
14:10 ~ 15:00	ロジスティクス大賞	北海道共同物流センター開設による医療用医薬品安定供給 体制の拡充〈GDP基準統一による手順・管理の標準化、及び共同化に伴う物流効率化の推進〉 ・BCPを想定した医薬品の安定供給体制拡充の必要性 ・共同化推進の目的と意義 ・北海道共同センターの成果と今後の展開 アステラス製薬株式会社 製薬技術本部 サプライチェーンマネジメント部 SCM日本・アジア・オセアニアグループ 課長 早田 雅彦 氏 <small>東日本大震災等の大規模災害時において、物流機能の麻痺・混乱による医薬品の供給不足は人命に関わる大きな問題となる。そこで、業界を代表する企業が連携して、医薬品業界としての事業継続の観点から物流拠点の分散化を図るために、共同物流センターの開設を行ったのが本取り組みである。従来のコスト削減の観点から物流拠点を集約していた流れと逆行する取り組みで、これを成功させるためにはコスト上昇を押しやるための標準化が必要不可欠となっていた。そのため、医薬品の適正流通基準(GDP: Good Distribution Practices)の発出を踏まえて、保管、荷役、輸送といった物流機能の標準化を図り、さらには温度管理等の品質管理基準についても統一を図っている。これにより、労働力不足の解消やCO₂排出量の削減、さらには生産性の向上にも寄与する取り組みとなっており、「医薬品の安定供給」という社会的責任を果たすためにも今後の普及が期待される優れた取り組みとして高く評価された。</small>
コーヒーブレイク		
		《コーディネータ》ロジスティクス強調月間2018 推進委員会 副委員長 日本通運株式会社 業務部長 三苦 和彦
15:15 ~ 16:30	特別 講演	イノベーションを引き起すアマゾンの企業文化と AWSクラウド活用先進事例のご紹介 ークラウドで加速するIoT、ビッグデータ、AI事例ー アマゾン ウェブ サービス ジャパン株式会社 事業開発本部 本部長 安田 俊彦 氏 <small>デジタル化の進展でイノベーションを起こし続けることが求められています。本講演ではアマゾンがイノベーションを起こし続けていける基盤となっている企業文化について説明をさせていただきます、そのDNAを持ったクラウドサービスを提供するAWSを活用した先進事例を特にIoT、ビッグデータ、AIの活用についてご紹介して参ります。 ・イノベーションを引き起すアマゾンの企業文化 ・アマゾンのDNAを引き継ぐクラウドサービスAWS ・AWSのIoT、ビッグデータ、AI領域を中心とした活用先進事例</small> <small>略歴 NTTデータにてシステム開発、事業開発に従事した後、ブログ等のソーシャルメディアを提供する米系スタートアップに入社。日本法人の執行役員(経営企画担当)として勤務した後米国本社に転籍し、本社の合併交渉等を担当。その後ミシシッピにおける海外事業開発担当を経て、現在はアマゾン ウェブサービス ジャパンにてSenior Manager, Head of Japan Business Developmentとしてアマゾン ウェブ サービス(AWS)に関する事業開発のリードを担当。東京大学大学院工学系研究科修士(修士)、Carnegie Mellon University MBA。</small>

ロジスティクス全国大会2018

サポーター一覧

株式会社IHI

アサヒビール株式会社

株式会社NTTロジスコ

株式会社オカムラ

花王株式会社

鹿島建設株式会社

カスケード(ジャパン)リミテッド

株式会社サーガ

サカタウエアハウス株式会社

サンコーインダストリー株式会社

サントリーホールディングス株式会社

株式会社住友倉庫

センコーグループホールディングス株式会社

ダイシン物流株式会社

株式会社ダイフク

株式会社チクブパッケージシステム

東洋ビジネスエンジニアリング株式会社

トヨタ自動車株式会社

株式会社豊田自動織機 トヨタL&Fカンパニー

トランスコスモス株式会社

日本通運株式会社

日本電気株式会社

一般社団法人日本海事検定協会

日本貨物鉄道株式会社(JR貨物)

株式会社日本能率協会コンサルティング

富士通株式会社

株式会社フジトランス コーポレーション

北王流通株式会社

ホンダロジコム株式会社

三井倉庫株式会社

三菱商事株式会社

三菱倉庫株式会社

村田機械株式会社

矢崎エナジーシステム株式会社

ヤマエ久野株式会社

リコーロジスティクス株式会社

月刊マテリアルフロー

月刊ロジスティクス・ビジネス

参加料金(消費税込み)		両日参加	1日参加
JILS会員	1名	36,720円	21,600円
	4名目以降	29,700円	17,280円
会員外	1名	60,480円	34,560円
	4名目以降	34,020円	25,380円

※上記料金には、テキスト代が含まれています。昼食代は含まれておりません。
 ※1社から4名以上参加の場合は、一括でお申し込み下さい。
 ※都合によりプログラムが変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。

◆ご注意

- ・テキストは会場でお渡しいたします。テキストのみの販売はいたしておりません。
- ・スライド内容を撮影する目的での写真撮影および講演内容の録音はご遠慮ください。

●有資格者優待(フォローアッププログラム)

当協会では、有資格者のためのフォローアッププログラムを実施しております。本プログラムは、当協会主催の講座で習得した知識をより深く実践の場で活用できる能力を身につけたいという、有資格者からの強い希望を受けて、当協会認定の資格*をお持ちの方に、当協会主催のプログラムを、優待料金にてご提供するものです。実践力の強化、最新の情報収集の場として、ぜひご利用ください。

◇フォローアッププログラム参加料(消費税込み)

両日参加	1日参加
29,700円	17,280円

(注)フォローアッププログラムにお申し込み後、参加者が資格をお持ちでない方に変更になった場合は参加料の差額を請求させていただきます。あらかじめご了承ください。

申込欄の該当保有資格にチェックをしてください。

*ロジスティクス経営士(経営)、国際物流管理士(国際)、グリーンロジスティクス管理士(グリーン)、物流技術管理士(物流)、物流現場改善士(改善)

参加定員

両日とも **250名** (定員になり次第、締め切らせていただきます)

参加申込方法

- ・下記の申込用紙に必要事項を明記のうえ、FAXにて事務局までお申し込みください。参加者へ「参加証」と「請求書」を参加日の約一週間前までにお送りいたします。お手元に届かない場合には、ご連絡をお願いいたします。
- ・開催間近のお申し込みについては、参加証をメールにてお送りいたします。
- ・開催日当日のお申し込みにつきましては、事務局へご連絡のうえ、直接会場へお越しください。

参加料支払方法

- ・請求書を発行いたしますので、指定銀行口座にお振り込みください。お支払いは原則として開催前日までにお願ひ申し上げます。(開催後になる場合は、支払予定欄に明記ください。)
- 振込手数料は、お客様にてご負担願います。

【お願ひ】

参加予定の方のご都合が悪い場合は、代理の方がご出席ください。なお、代理の方のご出席も不可能な場合は、下記の規定により、キャンセル料を申し受けますので、あらかじめご了承ください。

キャンセル規定

(注)キャンセルは、FAXでのご連絡のみ申し受けます。

開催7日前～前々日(開催日初日を含まず起算) 参加料(消費税を除く)の30%
 開催前日および当日 参加料(原則として消費税を除く)の全額

参加申込先/プログラム内容の問い合わせ先

公益社団法人

日本ロジスティクスシステム協会 JILS総合研究所

〒105-0022 東京都港区海岸1-15-1 スズエビティウム3階

TEL. 03-3436-3191 FAX. 03-3436-3190

●ロジスティクス全国大会2018●		開催期日		支払予定日		月		日払い	
		2018年10月18日(木)～19日(金)							
フリガナ 会社名									
事業所名						<input type="checkbox"/> 会員 <input type="checkbox"/> 会員外		参加される日に○印をご記入ください。	
参加者	フリガナ氏名1	所属 役職名	10月 18日	10月 19日	<input type="checkbox"/> 経営 <input type="checkbox"/> 国際 <input type="checkbox"/> グリーン <input type="checkbox"/> 物流 <input type="checkbox"/> 改善		取得期		期
	勤務先住所	〒 _____ 都道府県							
	TEL	_____	FAX	_____	_____				
	Mail								
	フリガナ氏名2	所属 役職名	10月 18日	10月 19日	<input type="checkbox"/> 経営 <input type="checkbox"/> 国際 <input type="checkbox"/> グリーン <input type="checkbox"/> 物流 <input type="checkbox"/> 改善		取得期		期
	勤務先住所	〒 _____ 都道府県							
	TEL	_____	FAX	_____	_____				
	Mail								
	フリガナ氏名3	所属 役職名	10月 18日	10月 19日	<input type="checkbox"/> 経営 <input type="checkbox"/> 国際 <input type="checkbox"/> グリーン <input type="checkbox"/> 物流 <input type="checkbox"/> 改善		取得期		期
	勤務先住所	〒 _____ 都道府県							
	TEL	_____	FAX	_____	_____				
	Mail								
	フリガナ氏名4	所属 役職名	10月 18日	10月 19日	<input type="checkbox"/> 経営 <input type="checkbox"/> 国際 <input type="checkbox"/> グリーン <input type="checkbox"/> 物流 <input type="checkbox"/> 改善		取得期		期
	勤務先住所	〒 _____ 都道府県							
	TEL	_____	FAX	_____	_____				
	Mail								
参加料合計	名	円	協会への 連絡事項						
※参加証、請求書は原則として合計金額を最上段(氏名1)の方にお送りいたします。それ以外をご希望の方は、協会への連絡事項欄にご指示ください。									DA-1805
			受付日	請求日	請求No				

※公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会では、個人情報の保護に努めております。詳細は、当協会のプライバシーポリシー(<http://www.logistics.or.jp/privacy.html>)をご覧ください。